

4) 地域への情報発信

● 地域医療連携センター

課長 佐藤 則子

<振り返り>

10月12日（土）午後

- ・ 職員の安全確保のため、3名の就業時間を午前中に短縮し対応しました。
- ・ 念のため電子カルテ本体をテーブルの上に移動しました。

10月13日（日）6時

- ・ 防災センターに被害の状況を確認し、現状では病院内に入ることができないため、自宅で待機するように指示を受けました。

10月13日（日）10時30分

- ・ 防災対策委員長より、10月15日（火）からの診療体制変更について、連携医療機関へ連絡周知するように指示を受けました。
- ・ 連絡通信手段を確保するため、連携課用FAX機から代表FAX機に医療機関のFAX番号のデータを移行するように業者に依頼しました。
- ・ 15日～19日までの紹介予約者の診療情報提供書をスキャンしました。
- ・ 医師に情報を確認してもらい、対応可能な患者さんとは対応困難な患者さんの振り分けを行うことにしました。

10月14日（月）

- ・ 防災対策全体会議での最新情報を確認し、「台風19号の冠水に伴う診療体制変更」を約300件の医療機関等にFAXで周知しました。
- ・ 外来の自動受付機が稼働できないため、手動による受付対応の動作確認を行いました。

10月15日（火）

- ・ 総合受付で待機している患者さんに、現在の受付の現状を説明し、受付から外来へ直接誘導し

ました。

- ・ 紹介予約患者さんへ当院の現状の説明と予約取り消しや延期等の電話連絡対応を行いました。医師、外来、看護師、連携課と分担して連絡対応を行いました。
- ・ 21日～26日までの紹介予約者の診療情報提供書をスキャンしました。

10月21日（月）

- ・ 自衛隊CT診断車、一般撮影、マンモグラフィ撮影が可能となり、「台風19号の冠水に伴う診療体制変更（第2報）」を、約300件の医療機関等にFAXで周知しました。
- ・ CT検査を三春病院に委託する手順書を作成し、周知しました。
- ・ 放射線検査の委託検査等を近隣の医療機関へ依頼し、その手順書を作成し、周知しました。（寿泉堂総合病院、総合南東北病院、白河厚生総合病院、呉羽総合病院）

10月28日（月）

- ・ 放射線の委託検査を星ヶ丘病院に依頼し、手順を周知しました。
- ・ 委託検査時にキビタン健康ネットのPACSを利用した画像データの保存方法を、放射線科、福島県医療福祉情報ネットワーク協議会、一般社団法人慈山会医学研究所坪井病院と協議開始しました。

10月30日（水）

- ・ 64列CT検査が11月5日から使用可能になることから、紹介患者の受入れが通常通り可能になることを報告するため、近隣の医療機関への訪問を開始しました。以後、12月7日までに65件を訪問しました。

11月2日（土）

- ・ 11月5日から64列C T検査機器1台が運用可能になり、紹介患者の受入が通常通りになったことを、約300の医療機関にF A Xで周知しました。

11月初旬

- ・ 放射線検査を今泉西病院へ委託し、手順を周知しました。
- ・ 骨塩定量検査をほし横塚クリニックに委託し、手順を周知しました。

11月中旬

- ・ キビタン健康ネットのPACSを利用した坪井病院への放射線検査の委託手順を周知しました。

12月初旬

- ・ 12月15日から車載型MR I が稼動、1月からは更にC T(256列)が稼動することについて、約500の医療機関に文書発送しました。

2020年3月

- ・ 3月16日から新しいMR I が稼動することについて約500の医療機関に文書発送しました。

<反省及び課題>

- ・ 最悪の状況を想定し資料や保管文書を移動しておくなどの対策が不十分だったため、待機していた職員の労力を増やす結果になってしまいました。
- ・ 連携医療機関への情報発信については、当初は主にF A Xを活用しての周知でした。連携医療機関のリストを更に充実させること、また院外の拠点からなど、どのような状況でも発信できる管理方法も検討しておく必要があると感じました。



● 法人広報部

課長 渡辺 由紀

<振り返り>

10月13日の災害対策全体会議決定事項により、被害状況や外来診療、星総合病院へのアクセス等についてホームページやFacebookへ掲載を開始しました。ネットニュースやNHKの災害テロップへの掲載依頼、各テレビ局や新聞社からの取材対応に追われながら、メディア対応、院内会議の様子や復旧作業等の現場取材や写真撮影（記録）を行いました。星総合病院としてどこまでの情報をどの範囲で流すのかを、防災対策委員会等へ確認しながら行いました。また、院内スタッフの情報共有についても各部署と連携し、職員専用ホームページへの掲載などを進めました。

3月17日の自衛隊CT診断車配置及び4月5日の感謝セレモニーについては、自衛隊郡山駐屯地広報班と共に、各新聞社やテレビ局に対応しました。また、避難所となった芳賀公民館での行政と連携した保健師訪問や炊き出し、病院の浸水被害などが、NHKニュース、FCT「ゴジてれChu!」、TBS「グッドラック」の特集、TUF「Nスタふくしま」などで放映されました。

通常通りの診療が開始された後も、車載型MRIの設置、病棟の床下改修工事等、復旧の進捗状況をFacebook等で報告をしています。復興記録誌の作成にあたり、各部署や個人で撮影した写真や動画を広報部で収集し、被災の記録として保管しています。



院外報『懸虹』での特集（地域の方々へのお知らせ）

<反省>

被災当日、被害を受けた場所の清掃や片付けの手伝いを優先したことから、後になって記録物の少なさを痛感しました。またメディアより取材の依頼が来た際に、確認する責任者が明確でなく、その都度、確認・調整を行ったため業務は非効率でした。

通常の診療に戻りつつあっても、継続して復旧作業の記録をしておく必要があったと反省しています。

<課題>

被災した情報を公表することは、多くの住民や行政等へ理解いただく機会となりますが、病院が利用できない等、間違った噂につながるリスクもあります。誰が、どのように対応するかを見極めるマネジメントの必要性を感じました。正しい情報を伝えるため、広報担当者も防災対策本部と密に連携する必要があります。また復旧作業中における写真撮影を不快に感じた職員もあり、院外だけでなく職員にも理解を求めていくことが重要と考えます。



院内報『るるる』での特集（職員へのお知らせ）

台風19号災害関連 取材対応・新聞掲載記事

【2019年】

- 10月13日（日）NHK取材 対応・災害ニューステロップ依頼
 14日（祝月）福島中央テレビ取材対応
 NHK福島、福島テレビ電話取材対応
 15日（火）福島民報取材対応
 16日（水）「新規外来診療に支障 医療機関 仮設受付で患者対応」福島民報 記事掲載
 18日（金）福島テレビ、福島放送、福島民友、福島民報取材対応
 19日（土）「星総合病院にCT診断車 自衛隊貸し出し」福島民友 記事掲載
 「陸自のCT診断車配置 郡山の星総合病院 二次救急再開へ」福島民報 記事掲載
 21日（月）「医療機器浸水 診療に制限 福島の病院 CT機器など被害25億円」朝日新聞 記事掲載
 葉上太郎報道事務所取材対応
 23日（水）「一時的に保育料免除 郡山市 被災で後片付けなどの際」福島民報 記事掲載
 TBS、テレビユー福島取材対応
 24日（木）フジテレビ、日経新聞電話取材対応
 25日（金）「被災者へ炊き出し 郡山星総合病院の栄養士ら」福島民報 記事掲載
 26日（土）「星総合病院、浸水被害25億円 郡山市」日経新聞 記事掲載
 28日（月）読売新聞電話取材対応
 11月 6日（水）NHK福島電話取材対応
 8日（金）「CT診断車を返却 郡山星総合病院 陸自に」福島民報 記事掲載
 12月 1日（日）「迫る台風 患者守った準備 事前入院や垂直避難 被災教訓生かす」読売新聞 記事掲載
 10日（火）テレビユー福島取材対応
 14日（土）「星総合病院に義援金400万円 東京の保険会社」福島民報 記事掲載
 15日（日）「星総合病院に義援金 台風支援 生保会社から400万円」福島民友 記事掲載

【2020年】

- 2月29日（土）「病院と保育園に人形と絵本贈る 福島キワニスクラブ」福島民友記事掲載
 3月 1日（日）「人形と絵本贈る 郡山 福島キワニスクラブ 病院、保育園に」福島民報記事掲載



2019年（令和元年）10月19日 福島民友